

1. 2010 年度前期授業アンケート結果の概要

1-1. 2010 年度の実施趣旨と従来との変更点

【授業アンケート実施目的】

- (1)科目担当者が、個別に授業改善を行うための資料および教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2)教員相互に関係科目の改善について課題を共有し、改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として、組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3)授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4)学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5)大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

【2010 年度変更点】

授業アンケート用紙の記載事項を一部変更した。

- (1)学科等
 - ・人間発達学部開設に伴い、「O: 英語コミュニケーション」→「O: 日本語日本文学」とし、以降学科順の表記に改めた。
 - ・「文化政策(1・2回生は都市環境デザイン)」→「都市環境デザイン(4回生は文化政策)」
- (2)コース・専攻 学部の表記を削除した。

1-2. 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2010 年度前期および夏期・秋期集中開講、通年開講の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

1-3. 調査期間

【前期】2010 年7月1日(木)～7月28日(水)

【夏期・秋期集中】2010 年8月5日(月)～9月17日(金)

- ・アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。
- ・教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。

* 2010 年度前期の回収率は全体で 78.28%となった。

(参考:09 後期 74.89% 09 前期/77.72% 08 後期/74.89% 08 前期/77.66%)

1-4. 調査設計

調査項目の基本構造は前年度までと同じである。

- (1) 学部・学科・回生・コースなどの基本データ
- (2) 授業についての選択項目/16 項目
- (3) 授業についての自由記述/4 項目

基本データおよび選択項目については、マークシートを採用し、データ処理をおこなった。自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

2. 2010 年度前期授業アンケート結果の特徴と傾向

2-1. 授業形態別傾向分析 別紙資料:P1(補足 PP2-4)

【講義】(総合平均/3.91P)* 前年度と同水準
3.0P以下の割合は授業形態中最も多く、4.0P未満の割合が5割弱

【演習】(総合平均/4.21P)* 前年度と同水準
4.0P以上の割合が9割弱と全体的に高い傾向

【語学】(総合平均/4.17P)* 前年度と同水準
4.0P以上が7割以上で全体的に高い傾向

【実習・実技】(総合平均/4.46P)* 前年度と同水準
サンプル数が「20」と少ないが、ほとんどが 4.0P以上

2-2. 学科別傾向分析 別紙資料:P5-9

【日本語日本文学科(日本語日文学コース)】
サンプル数が演習・講義ともそれぞれ 20 程度と少ないが概ね高いポイントに分布

【日本語日本文学科(書道コース)】
サンプル数が少ないが、いずれも高い値を示している

【歴史学科】
演習では、ほとんどが 4.0P以上を示し、演習・講義ともに高いが、講義で1科目 2.88Pあり

【文化財学科】
サンプル数が少ないが、4.0P以上が多く、高いポイントに分布

【児童教育学科】
特に演習に顕著であるが、4.0P以上が多く、演習・講義ともに高いが、講義で1科目 2.74Pあり

【英語コミュニケーション学科】
4.0P以上が多く、演習・講義ともに高いが、演習で1科目 2.67P、講義で1科目 2.90P(*)あり

【現代マネジメント学科(現代マネジメントコース)】
演習・講義ともに全体的に 3.5P以上になっているが、講義で1科目 2.93P

【現代マネジメント学科(救急救命コース)】
サンプル数が少ないが、演習・講義ともに高いポイントに分布

【文化政策/都市環境デザイン学科】
演習・講義ともに3P台後半に集中して分布しているが、演習で1科目 2.54P、講義で 2.88P、2.94P(*)の2科目あり

【看護学科】
演習・講義ともに 4.0P以上に集中して分布しているが、講義で 2.36P、2.84Pの計2科目あり

2-3. 科目分類別傾向分析 別紙資料:PP10-11

【ベーシックスキル数学】

「総合」(4.00)で-0.21。相関関係から分析すると、「意欲」(係数 0.77)の-0.18と「触発」(係数 0.73)の-0.21、「学習意欲」(係数 0.72)の-0.11 などの影響が大きいと考えられる(①) * 全 11 科目が「演習」につき、この相関係数を参照

【キャリア(全体)】

「総合」(3.86)で-0.44。相関関係から分析すると、「明瞭」(係数 0.75)の-0.38、「学習目標」(係数 0.74)の-0.26、「将来」(係数 0.74)の-0.37、「触発」(係数 0.74)の-0.35 などの影響が大きいと考えられる(②) * 実施した 15 科目中 12 科目が「講義」につき、この相関係数を参照

2-4. 演習(ゼミ)別傾向分析 別紙資料:P12~15

【研究入門ゼミ I (文化財)】 * 1 回生

「総合」(4.00)で-0.35。相関関係から分析すると、「意欲」(係数 0.77)の-0.18、「触発」(係数 0.73)の-0.22、「学習意欲」(係数 0.72)の-0.59 などの影響が大きいと考えられる(③)

【SAP-Prep(英コミ)】 * 2 回生

「総合」(3.95)で-0.46。相関関係から分析すると、「意欲」(係数 0.77)の-0.44、「触発」(係数 0.73)の-0.37、「学習意欲」(係数 0.72)の-0.42 などの影響が大きいと考えられる(④)

【基礎演習Ⅲ(現マネ)】 * 2 回生

「総合」(3.88)で-0.42。相関関係から分析すると、「意欲」(係数 0.77)の-0.54、「触発」(係数 0.73)の-0.33、「学習意欲」(係数 0.72)の-0.20 などの影響が大きいと考えられる(⑤)

3. 基本データ

3-1. 基本データ

以下の 6 項目とした。

①科目名 ②クラス ③学部(院)・学科 ④回生 ⑤コース ⑥科目コード

3-2. 授業についての選択項目

下表の 16 項目について [1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまると思うもの一つだけにマークさせた。質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

[A. 教員の授業方法について]	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]
⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
[B. あなたの理解状況について]	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]

⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
[C. あなたの授業態度について]	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学習]
[D. 総合・その他]	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

3-3. 授業についての自由記述項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ① この授業のどの点がよかったですか。
- ② この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③ 良くなかった点を改善するためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④ その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

3-4. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

- ① アンケート用紙の配布は封筒で行う。
- ② 授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示するか、または教室内に封筒を回す。そのほかクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。
- ③ その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないように指示をする。
- ④ 提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、処理事業者へ渡す。①基本データと、②授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、②については読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

3-5. 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

【回生別回収率】

	全登録者	1回生	2回生	3回生	4回生	院1回生	院2回生	院3回生	回生不明
登録者数	30,301	10,556	10,547	6,493	2,518	105	31	7	44
有効回収数	23,720	9,126	8,059	4,429	1,417	174	37	10	468
有効回収率	78.3%	86.5%	76.4%	68.2%	56.3%	165.7%	119.3%	142.9%	1063.6%

(参考: 2009 後期 74.89% 2008 後期 74.89% 2008 前期 77.66% 2007 年後期 76.28%)

* (有効回答数) = (登録者数) - (欠席者)

* (有効回収率) = (有効回答数) / (登録者数)

* 2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データはゼロ。

- 1) 読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。
- 2) 科目コードと所属を、マークに加えて科目ごとに袋で管理した。

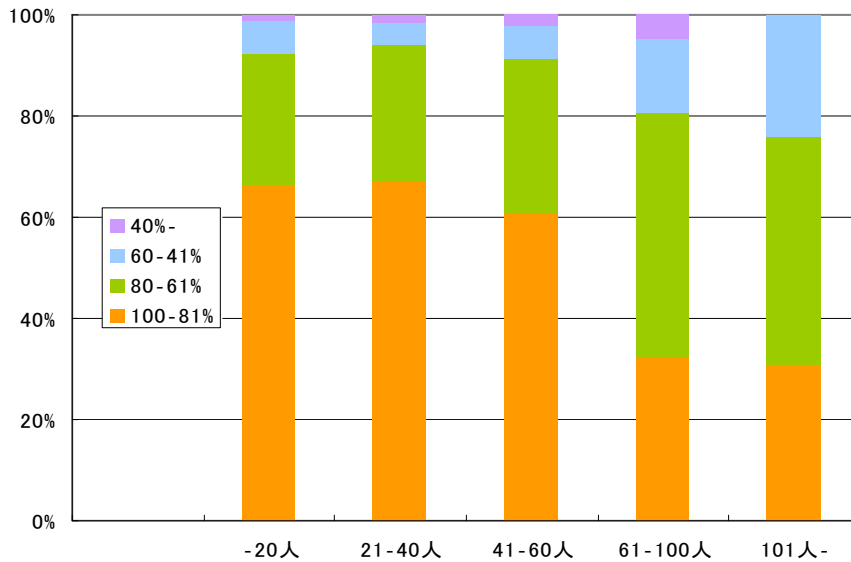
【所属別回収率】

学科	日文	歴史	文化財	児童	英コミ	現マネ	文政 /都市環	看護	院文	院政	院看護	学科 不明
登録者数	3,459	4,527	2,249	4,767	1,869	5,130	5,162	2,917	92	42	9	78
有効回収数	2,531	3,712	1,914	3,894	1,447	3,777	3,438	2,416	74	55	128	334
有効回収率	73.1%	82.0%	85.1%	81.7%	77.4%	73.6%	66.6%	82.8%	80.4%	131.0%	1422.2%	428.2%

* 歴史、文化財、児童教育、看護の回収率が高く、現マネ・都市環(文政)の回収率がやや低めであった。

【クラスサイズ別回収率】

回収率 クラス規模	100-81%	80-61%	60-41%	40%-	合計
-20人	162	64	16	3	245
21-40人	190	77	13	4	284
41-60人	56	28	6	2	92
61-100人	20	30	9	3	62
101人-	19	28	15	0	62
合計	447	227	59	12	745



3-6. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率/4.8%

36科目/745科目(自由設定項目の利用科目数/アンケート実施全科目数)

* 09 後期/2.9% 09 前期/4.0% 08 後期/8.2% 08 前期/5.6% 07 後期/6.1%

以上